

「素質的胎児疾患および新生児遷延性適応障害患児の 医療と健やかな生活をもとめて」

(分担研究：新生児・乳児の在宅療法と生活管理をめぐる保健指導に関する研究)

研究協力者 高橋 滋
共同研究者 高田 昌亮 武田 弘子

要 約：当院NICUにおける過去20年間の素質的胎児疾患患児の入院数、比率には増加はみられない。しかし、長期入院児、低出生体重児、院内出生児に占める素質的胎児疾患患児の比率が最近5年間で増加し、かつ死亡率は低下している。したがって、長期入院、在宅医療における保健指導上問題となる素質的胎児疾患患児の増加が危惧される。次にNICU退院後の初回外来受診時のアンケート調査では緊急時の医療機関および将来の発達についての不安が読みとれる。

見出し語： NICU内の素質的胎児疾患患児の動向。NICU退院後の初回外来受診時のアンケート調査。

研究方法： 素質的胎児疾患の当院NICUにおける過去20年間の動向、5年毎の素質的胎児疾患患児の占める長期入院児の比率、院内出生率および死亡率の各推移を検討した。次にNICU退院後、初回外来受診時に41項目のアンケート調査を行い家庭生活への適応上の問題点を調べた。

結 果： 1970年、当院NICU開設以来の20年間の素質的胎児疾患患児の入院数、比率は9.5%から18.6%であり、増加はみられない。疾患の内訳は先天性心疾患42.7%、中枢神経系奇形8.4%、Down症候群7.8%で全体の58.9%を占めていた。素質的胎児疾患患児の死亡率は最近の5年間は12%であり、減少がみられる(図1)。素質

的胎児疾患患児の3ヵ月以上の長期入院の比率および院内出生率とも最近5年間で増加傾向がみられた。NICU退院後の初回外来受診時のアンケート調査では緊急時の医療機関のない不安および児の将来の発達についての不安がそれぞれ41.7%、42.9%示された(表1)。

考 察： NICU延長線上の保健指導上問題となる児のうち素質的胎児疾患患児が3割を占めていることを前年度示したが、素質的胎児疾患患児の死亡率の減少、長期入院の比率の増加、院内出生率の増加傾向から、退院後にも不安を抱いて家庭生活を送らざるを得ない児の増加が推測された。

図1 当院NICUにおける過去20年間の先天異常児の死亡率の推移

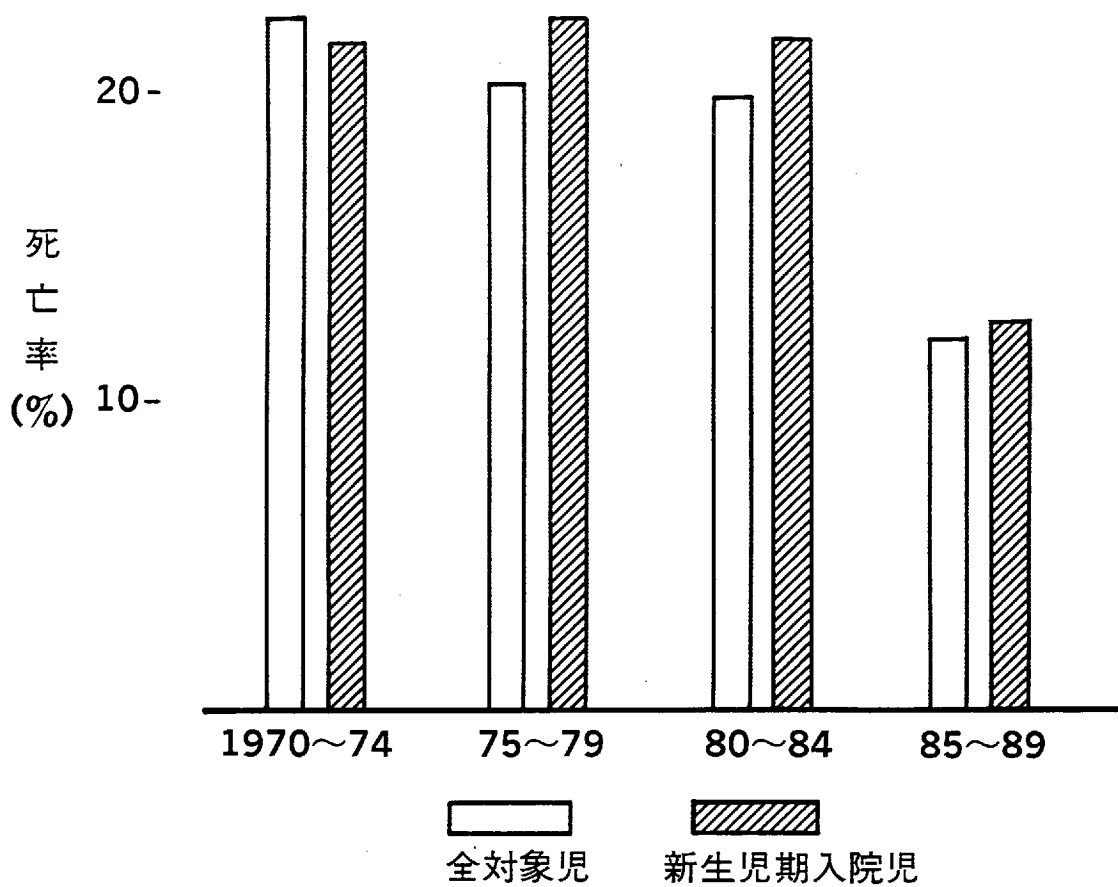


表1 【退院時・退院後の不安について】

方 法：初回外来受診時（退院後の）にアンケート用紙記入をお願いした。

対 象：1990年10～12月の3ヵ月間に当院NICUを退院した52名

院内出生：36名 1ヵ月未満：30名

院外出生：10名 1～3ヵ月：19名

外来入院：6名 3ヵ月以上：3名

	Total	< 1M	1~3M	3M >
1. 緊急時の医療機関	(48)	(27)	(18)	(3)
ない	41.7%	48.1%	38.9%	—
ある	58.3%	51.9%	61.1%	3
2. 本日来院するまで他院を受診したか	(50)	(29)	(18)	(3)
しない	74%	79.3%	61.3%	3
した	26.0%	20.7%	38.9%	—
3. 保育環境上の心配事	(48)	(27)	(18)	(3)
ない	65.3%	64.3%	61.1%	3
室温	24.5%	25%	27.8%	—
日当たり	2%	—	5.6%	—
騒音	8.2%	14.3%	—	—
その他	6.1%	7.1%	5.6%	—
4. 排便についての心配	(50)	(25)	(18)	(3)
ない	74%	62%	88.7%	3
出ない	10%	10.3%	11.1%	—
水様便	2.5%	3.4%	5.6%	—
緑色便	22%	13.8%	38.9%	—
排便時苦しそう	8%	6.4%	11.1%	—
その他	14%	13.8%	16.7%	—
5. 将来の発達についての不安	(49)	(28)	(18)	(3)
ない	57.1%	60.7%	61.1%	—
ある	42.9%	39.3%	38.9%	3
6. 退院後赤ちゃんは薬を飲んでいるか	(49)	(28)	(48)	(3)
いない	89.5%	92.9%	94.4%	1
いる	10.2%	7.1%	5.6%	2
7. お母さんは薬を飲んでいるか	(50)	(29)	(18)	(3)
いない	94%	96.6%	88.9%	3
いる	6%	3.4%	1.1%	—
8. 相談者	(52)	(30)	(19)	(3)
日大の医師	38.5%	53%	10.5%	2
日大の看護婦	19.2%	16.7%	10.5%	3
ホームドクター	1.9%	3.3%	—	—
保健所(婦)	19.2%	10%	31.6%	1
家族	57.7%	56.7%	68.4%	—
友人	36.5%	26.7%	52.6%	—



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約: 当院 NICU における過去 20 年間の素質的胎児疾患児の入院数、比率には増加はみられない。しかし、長期入院児、低出生体重児、院内出生児に占める素質的胎児疾患児の比率が最近 5 年間で増加し、かつ死亡率は低下している。したがって、長期入院、在宅医療における保健指導上問題となる素質的胎児疾患児の増加が危惧される。次に NICU 退院後の初回外来受診時のアンケート調査では緊急時の医療機関および将来の発達についての不安が読みとれる。